



第 7 回巨大津波災害に関する合同研究集会に参加しました(2017/12/8-9)

場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

参加者：Pakoksung 研究員，林助手，渡部（D2），倉本（B4），新家（B4）

12 月 8 日(金)～9 日(水)の 2 日間、「巨大津波災害に関する合同研究集会」が東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）で開催されました。この研究集会は津波に関する研究に焦点を絞りつつ、工学だけでなく理学まで幅広い分野の講演及び意見交換を行うもので、毎年 12 月に行われています。第 7 回となる今回は本研究室が所属する災害科学国際研究所での開催となり、2 日間で計 41 公演という多数の参加をいただきました。発表者として、Pakoksung 研究員，林助手，渡部（D2），倉本（B4），新家（B4）が参加しました。発表者の講演内容は以下の通りです。※下線は発表者

K.Pakoksung , A.Suppasri, F.Imamura : **Systematic Evaluation of Multilayered Infrastructure Systems for Tsunami Disaster Mitigation in Sendai City**

林晃大，山下啓，今村文彦：家屋被害実績に基づく海岸林の津波減災効果に関する定量的検討

渡部真史，後藤和久，R.Volker, 今村文彦：2013 年ハイヤン台風での BOSZ モデルを用いた土砂移動計算による高潮堆積物形成プロセス推定

倉本和俊，サッパシー・アナワット，今村文彦：仙台湾の観測による宮城県における津波注意報・警報となり得る正断層地震シナリオの評価

新家杏奈，佐藤翔輔，今村文彦：津波避難行動を促す要因に関する調査研究～東日本大震災以前とその後の津波伝承に着目して～



K.Pakoksung 研究員



渡部真史(D2)



新家杏奈 (B4)

(文責：倉本)